「現場力」を身につける。
教室からフィールドへ―

東北大学公共政策大学院
SCHOOL OF PUBLIC POLICY, TOHOKU UNIVERSITY

2022 大学院案内

これからの社会を構想する

東北大学
公共政策大学院院長
飯島 淳子

「人口減少社会」や「地方消滅」といったこの国の構造的課題を考える余裕すらないほど、すべての人が生命・健康を脅かすリスクに向き合わされる状態が続いています。この現状のなかでそれでも、「私」は何をすべきか、「私たち」は何をすべきか、「みんな」は何をすべきかを考え、動くこと、そのためにとるべき方法を学ぶことは、公共政策大学院の存在意義の一つではないかと思います。

東北大学公共政策大学院は、2004年の開設から17年目を迎えました。開設に向けた準備のなかで、諸外国における公共政策分野での高度職業人材の養成のあり方をも参考にしながら、政策の調査・提言を集団作業で行う公共政策ワークショップという教育方法に挑戦する決断をいたしました。ワークショップは、学生と教員による17年間の（そしてこれからも続く）試行錯誤の結晶であるとも言えます。

毎年、4つのワークショップのチームごとに、仙台・宮城・東北の現場に密着しつつ、日本全体、そして世界を見据えながら、個別具体的に課題を抽出し、その解決に向け、実効性を備えた政策提言を行っています。中央省庁から派遣された実務家教員が自らの経験のなかで獲得してきたものを余すことなく伝えること、研究者教員もまた自らの専門分野に拠りつつ現場の生々しい課題と格闘すること、を通して、実務と理論の協働をわずかなりとも実現しえているのではないかと自負しています。

東日本大震災から10年を経た今年度は、公共政策にとっても東北大学公共政策大学院にとっても、一つの節目の年に当たります。2つのワークショップがそれぞれのアプローチで防災をテーマとし、あのときから被災地に位置する大学として継続してきた営みをも振り返り、今後につなげていきます。残り2つのワークショップは、脱炭素地域づくり政策と「ニューノーマル」時代の地域政策をテーマとして選択しました。日常化する危機のなかでこれからの社会をどう構想していくかを考えるという点で、4つのワークショップは貫かれているように思います。

この一年間、公共政策大学院でも小さなPDCAサイクルを実践し続けてきました。特に「現場主義」を掲げるワークショップでは、学生・教員ともに試行錯誤を重ね、オンラインでのヒアリングや報告会を含めて例年と変わらぬ成果を挙げることができました。この経験に基づく自信を胸に、今年度は、残された課題に取り組みつつ、東北大学公共政策大学院の未来を切り拓いていけるよう、ともに、そしてそれぞれに力を尽くしていきたいと思います。志ある皆さんと来年4月に片平キャンパスでお会いできることを願っています。

東北大学公共政策大学院
SCHOOL OF PUBLIC POLICY, TOHOKU UNIVERSITY

Contents

院長あいさつ ……02
3つの特長 ……03
【特長1】　実践的なワークショップ……04
2021年度　公共政策ワークショップI……06
【特長2】　高度で多彩なカリキュラム ……08
教員紹介 ……10
【特長3】　少人数制によるキャリア形成支援 ……12
座談会　公共政策を学び始めて ……16
さまざまなフィールドで活躍する修了生 ……19
就職・進路関係 ……21
入試関係情報 ……23

パンフレット内のQRコードのリンク先を参照頂ければ、詳細な情報をご覧いただけます

「公共」のプロフェッショナルをめざして

3つの特長

特長1 実践的なワークショップ

東北大学公共政策大学院の中核をなす「公共政策ワークショップ」では、現場を幅広く体験・観察し、現場の声を踏まえて、具体的な政策提言をつくりあげていきます。

特長2 高度で多彩なカリキュラム

法学、政治学系の科目にとどまらず、経済学、さまざまな政策分野に関する演習など、高度で多彩なカリキュラムを提供しています。

特長3 少人数制によるキャリア形成支援

研究者教員、実務家教員が受け持ちの学生に対して、学習、進路など、きめ細かく相談・指導に当たります。

2年間で修了

標準的な修了年限は2年間ですが、

- 実務経験を有し、特に優秀な成績を修めた学生は、1年間での修了も可能。
- 社会人学生で、仕事との両立など一定の要件に該当する場合には、「長期履修学生」として、最長で4年間までの在学が可能。

→ 修了者には「公共法政策修士（専門職）」の学位を授与

特長 1

実践的な
ワークショップ

公共政策ワークショップ

東北大学公共政策大学院の「真髄」

POINT

「公共政策ワークショップ」は、東北大学公共政策大学院の「代名詞」とも言える中核的な演習科目です。政策は、理論的側面からの精緻な組み立てが必要ですが、同時に現実の社会で有効に作用するものでなければなりません。「現場重視」は、我々が最も大切にしている教育理念の1つです。

公共政策ワークショップⅠ（1年次必修）、ⅡA・ⅡB（2年次必修）

1年次の「公共政策ワークショップⅠ」（通年12単位）では、中央省庁、地方自治体などの協力を得ながら、それらの機関が直面する政策課題に対して「政策提言」をまとめていきます。例年概ね4つのプロジェクトが設定され、それぞれ7、8名程度の学生が所属します。プロジェクト運営は「学生主体」とし、実社会と同様、各学生が役割、責任、主体性を持ちながら、チームとして行動し、成果を出すことが求められます。実務家教員・研究者教員の双方が指導に当たり、「机上の空論」にならないよう、行政機関等への現地調査を繰り返しながら検討を深め、提言内容をまとめていきます。

7月と12月の2回開催される報告会は、文書作成能力、プレゼンテーション能力に加え、真摯で白熱した質疑応答を通じて応答、説明の能力を磨く格好の機会となります。

また、2年次の「公共政策ワークショップⅡA・ⅡB」（計8単位）は、東北大学公共政策大学院での「総決算」となります。各学生が自ら研究テーマを設定し、教員の指導を受けながら個人で研究を進め、成果を「リサーチ・ペーパー」としてまとめます。現地調査の重視や政策提言を内容とする点は、「公共政策ワークショップⅠ」と同様です。

福祉政策 学生が提言

仙台 東北大大学院で報告会

福祉や地域振興について政策提言する学生

出典：2021年1月1日 河北新報社記事

公共政策ワークショップⅠの進め方

1 基礎知識の習得

出身学部の違いなど、学生のバックグラウンドは多様。
まずは、調査研究の基礎となる専門知識を習得します。

2 現地調査の開始、課題の発見と整理 調査研究の方向性を検討

机上の検討だけでなく、実際に現地に赴き、関係者の生の声を聴くことで、政策の現状や課題をリアルに捉えます。

3 報告会Ⅰ（7月下旬）

プロジェクトの進捗状況と今後の進め方についての報告会。
学生同士、教員との質疑がブラッシュアップのヒントになります。

4 政策提言に向けた調査研究の深化 提言内容の具体化・「ツメ」の作業

引き続き、現地ヒアリングを繰り返しながら、
リアリティのある政策提言を追求していきます。

5 報告会Ⅱ（12月下旬）

公共政策ワークショップⅠ最大の「やま場」。提言先等の方からもコメントをいただき、提言のクオリティに磨きをかけます。

6 最終報告書の完成・提言先への説明・送付

在学生から

ワークショップでの経験を通じてスキルアップ

山梨県出身
立教大学経済学部卒業　**佐久間 惇**（2020年度入学）

本学の強み・特徴は、やはり公共政策ワークショップであると実感しています。ワークショップでの経験は、知識・知見を深めることに加え、チームワーク・課題解決力・交渉力等といった様々なスキルを身につけることができ、今後のキャリア形成にも大いに役立つものと思います。また、担当教員の先生方からは議論の進め方や政策についての考え方など、手厚いご指導をいただける点に加え、学生と先生方との距離が近い点も本学の特徴です。私事ですが、先生方と温泉へご一緒させていただいた経験は忘れられない思い出です。本学には自身の経験や視野を広げることができる非常に恵まれた環境があります。

2021年度 公共政策ワークショップⅠ

「公共政策ワークショップⅠ」は、例年、概ね４つのプロジェクトから構成され、1年次の学生はそのいずれかに所属します。研究テーマは毎年度設定されますが、これまで、東日本大震災からの復興、農業振興、地域活性化、環境・エネルギー、外交など多岐にわたるプロジェクトに挑んできました。

ここでは、本年度まさに進行中のプロジェクトについて紹介します。

過去のワークショップのプロジェクトのテーマは、東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。

プロジェクト PROJECT A 環境・経済・社会の各課題の同時解決を目指した脱炭素地域づくり政策に関する研究

脱炭素社会の実現に向けた取組を通して地域の課題も克服する方策を考える

主担当 教 授 廣木 雅史

1988年環境庁入庁。
厚生省、外務省、北九州市役所、
総理大臣官邸、四国経済産業局に出向。
環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課長、
地球環境局総務課長、水・大気環境局総務課長、
独立行政法人環境再生保全機構理事を経て、
2020年8月より現職。

2050年に二酸化炭素などの温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「脱炭素社会」の実現に向け、世界各国が急速に取組を加速させている中、我が国でも再生可能エネルギー導入などの取組が急ピッチで進められようとしています。特に大都市圏以外の地域に豊富に存在する再生可能エネルギー導入ポテンシャルを活かすことができるかどうかが鍵となりますが、現状を見ると地域にメリットがないとして再生可能エネルギー導入が停滞している状況が多く見られます。

しかしながら東北各県では、東日本大震災の経験も踏まえ、地域資源の持続可能な利用を行い、温室効果ガスの排出削減を進めながら、雇用創出や安全で豊かな暮らしを実現し、地域を活性化しようとする取組も数多く行われてきています。

プロジェクトAでは、これらの東北各地における取組による成果や課題等について調査・分析を行うことを通じ、2050年に脱炭素社会の実現が求められる中、今後の地域社会のあるべき姿を探るとともに、そこに円滑に移行するための政策を提言できるよう取り組んでいきます。

プロジェクト PROJECT B パンデミックをめぐる公共政策――感染症対策と地域政策

関心と希望を持てる「新たな日常」を構想する

主担当 教 授 飯島 淳子

東京大学法学部卒業、
東京大学大学院
法学政治学研究科博士課程修了。
2012年より現職。専攻は行政法。

この状況はいつまで続くのか、これからどうなるのか。不安や恐怖がまん延するなか、公共政策はその存在意義を試されています。

刻一刻と変化しながらも常態化すること、グローバルでありながらも地域差があること、すべての人に関わりながらも格差が拡大すること等、問題を把握すること自体が難しく、「正解」は誰にも分かっていません。感染症法や新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正、国の行政機関による無数の方針・通知・事務連絡だけでなく、都道府県、市町村、そして事業者や地域住民、私たち一人ひとりもまた、公共政策の担い手としてこの現実に関わっています。

プロジェクトBは、感染症対策と地域政策という連続的な二本立ての下、危機管理体制、情報管理ルール、まちづくりや地域づくりなどの分野を対象に、何がどのように課題として把握され、どのような対策がどのように策定・実施されているのかを調査・分析し、政策提言を行うことを目指してスタートしました。それぞれの個性と魅力をもつ8名の学生が1つのチームとなって、自分の・自分たちの問題として「これからどうするのか」を模索していきます。

プロジェクト PROJECT C

Build Back Better（より良い復興）を目指す、防災分野を通じた我が国の国際協力に関する研究

我が国の経験・英知を活かし、「誰一人残さない社会」の実現のためにイニシアティブを発揮する

主担当 教 授 **今西 淳**

1993年外務省入省、英国研修後、
在南アフリカ大使館へ。その後、国際協力局（JICA担当）、欧州局、名古屋COP10準備事務局を経て、国連代表部で勤務。
復興庁出向後、本省危機管理調整室長、儀典総括官を経て、2019年11月より現職。

今日、世界各地で様々な災害が発生し、一国、一地域にとどまらず国際社会に大きな被害をもたらしています、その際に一番深刻な影響を受けるのは脆弱な社会、人々です。

度重なる災害による貧困の連鎖から抜け出すためには、災害に強い、しなやかな社会を構築し、災害から人々の生命を守り、持続可能な開発を目指す取組が必要です。

防災に対する認識が各国で異なる中で、その国・地域の政策・計画に防災の視点を導入し、防災を投資と捉え、「防災の主流化」を推進しなければなりません。

日本は戦後、政府開発援助（ODA）を通じて、アジア、アフリカ等の開発課題、そして地球規模の課題の解決に取り組む中で、防災の国際協力を実践してきました。

プロジェクトCでは、「誰一人残さない社会」の実現のために、日本の国際協力の今日的な意義を確認し、「より良い復興」、「防災の主流化」を目指す、日本の防災の国際協力のイニシアティブについて探求します。

プロジェクト PROJECT D

震災復興10年の総合的研究―これからの東北・宮城を見すえて

課題先進地の最前線で、これからの解決策を考えよう！

主担当 教 授 **伏見 岳人**

2005年東京大学法学部卒業。
2011年東京大学大学院法学政治学研究科総合法政専攻博士課程修了。博士（法学）。
2011年4月より東北大学大学院法学研究科准教授。
2019年8月より現職。
専攻は日本政治外交史。

東日本大震災からの復興期間１０年で、東北・宮城はいかに変わったのでしょうか。未曾有の複合的災害から再び立ち上がり、活力ある日本の再生や一人一人の人間が豊かな生活を送れる復興を目指したひとびとの軌跡を、あらためて総体的に学び直せないでしょうか。

11年目の今年から国の政策的関与は大幅に整理・再編され、今後は自立した自治体がそれぞれに持続可能な運営を模索していくことになりました。大規模な復興事業をめぐる対立の傷痕、ハード事業の維持管理コスト、自治体間の人口の流動、宮城県全体での合計特殊出生率の低迷、にぎわい創出事業へのコロナ禍の制約、高齢化する被災者コミュニティ支援の継続や不登校児童生徒のサポートなど。いずれも被災地が今なお直面する、簡単には答えの出ない難問ばかりです。

さまざまな関係者へのヒアリングを駆使して、これからの日本を担う若人たちが、未来を見すえた政策提言作りに全力で取り組んでまいります。

在学生から

政策課題を多角的に考える

宮城県出身
宇都宮大学国際学部卒業　**狩野 百香**（2020年度入学）

本学の大きな魅力は、公共政策ワークショップにおいて、実務家教員から政策立案における「当事者の視点」を学べることだと思います。更に、研究者教員の理論的な視点を学ぶことで、政策課題を多角的に捉えることができます。また、学業と就職活動の両立は大変な時もありますが、常に主体性をもって行動することが重要です。皆さんの大学院生活を充実したものにするためにも、今一度、「大学院で学ぶ目的」を考えてみてください。皆さんと共に学ぶことを、楽しみにしています。

特長 2

高度で多彩なカリキュラム

実践的なアプローチを裏打ちする確かな理論の習得

POINT

「現場重視」と両輪となるのが公共政策に関する「確かな理論の習得」です。理論的な裏付けのない単なるアイデアの寄せ集めでは「政策」とは呼べません。このため、法学、政治学、経済学など多角的なアプローチを身に付けるための履修科目を用意しています。

カリキュラム

東北大学公共政策大学院のカリキュラムは、「必須科目」、「基幹科目」、「展開科目」より構成されています。修了には、必須科目・基幹科目を含めて48単位以上の修得が必要です。

1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
必須科目（政策調査と論文作成の基礎、公共政策ワークショップI）	必須科目（公共政策ワークショップI）	必須科目（公共政策ワークショップIIA）	必須科目（公共政策ワークショップIIB）
基幹科目	基幹科目	基幹科目	基幹科目
展開科目	展開科目	展開科目	展開科目

必須科目

「必須科目」は、「公共政策ワークショップI（12単位）」及び「公共政策ワークショップIIA（2単位）」「公共政策ワークショップIIB（6単位）」並びに「政策調査と論文作成の基礎（2単位）」です。

このうち「政策調査と論文作成の基礎」では、公共政策大学院の学修と研究に必要な調査及び論文作成のための基礎的な技法を習得します。論理的議論の組み立て方や論文のフォーマット、効果的なプレゼンテーションの実践、政策情報の収集法、統計データの作成と解釈、法的枠組みを把握するための方法、調査の成果を報告書や論文としてアウトプットするための方法などを学びます。

すべての学生が円滑に履修を進められるよう、法学部出身の学生のみならず、理科系を含めた他学部出身の学生にも十分に配慮した教育を行っています。

基幹科目

学生は1年次より、「必須科目」とは別に、「基幹科目」の諸科目を履修することが求められます。「基幹科目」は法律学、政治学、経済学などの分野からバランスよく構成され、このうち18単位が選択必修となります。

「基幹科目」に配当されている授業は可能な限り学際的であることが目指され、複数の法領域・政策領域に関わる問題を多角的な学問領域から分析するように配慮されています。科目によっては、研究者教員・実務家教員との連携、学外の実務家による講演なども交えて行われます。

理論と実務の双方の観点から公共政策の基礎的・体系的な知識を学習する授業、公共性についての理解を深め、現象の背後に存在する理念的・価値的な問題についての洞察力を涵養することを目的とした公共哲学に関する授業など、多彩な授業が開講されています。

展開科目

「必須科目」及び「基幹科目」の履修と並行して、学生は必要に応じて、より高度な社会科学の専門知識を習得し、または理科系の諸学を含めたより広範な領域にわたる政策学について学びます。なお、「関連科目」として会計大学院の授業を履修することもできます。

東北大学公共政策大学院科目一覧（令和3年度実績）

1 必須科目

■公共政策ワークショップⅠ
・プロジェクトA ・プロジェクトB
・プロジェクトC ・プロジェクトD
■公共政策ワークショップⅡ A・B
■政策調査と論文作成の基礎

2 基幹科目

公共政策基礎理論／公共政策特論／実務政策学
地域社会と公共政策論／行政の法と政策／国際社会と各国法秩序
租税制度論／政策税制論／公共哲学／地方自治法／防災法
グローバル・ガバナンス論／経済学理論／財政学

3 展開科目

都市環境政策論演習／法と経済学／環境法／実務労働法／社会保障法／経済法／ジェンダーと法演習
国際関係論演習／比較政治学演習／ヨーロッパ政治史演習／西洋政治思想史演習／日本政治外交史演習
防災政策論演習／国際政治経済論演習／アジア政治経済論演習／中国政治演習
環境・コミュニケーション演習／経済産業政策特論／比較公共政策／震災復興における政治・行政
日本政治演習／労働法演習／行政学演習／援助と開発演習／金融法／政策評価論／政策分析の手法
経済と社会

※上記科目は、令和3年度に開講している科目です。今後変更されることがあります。

在学生から

分野を超えた実践的な学び

静岡県出身
東北大学工学部化学・バイオ工学科卒業 浅田 崇之（2020年度入学）

公共政策大学院には様々なバックグラウンドを持つ先生や学生がいます。そういった方々と行うワークショップ活動は、私の視野を格段に広げてくれました。そして、ここで出会った「共に考える仲間」の存在は、掛け替えのない宝だと感じています。「何かを解決したいけれど、どうしたら良いのだろうか？」そういう思いを持つ人にとって、東北公共には分野の垣根を飛び越える沢山のチャンスが転がっていると思います。みなさんもここで社会課題に挑み、解決策を作ってみませんか？

教員紹介

国際法

理事・副学長・教授 **植木 俊哉**

1983年東京大学法学部卒業。東北大学法学部助教授を経て、1999年より東北大学法学部教授。2004年から2006年まで東北大学大学院法学研究科長・法学部長、2006年から東北大学理事・大学院法学研究科教授、現在に至る。専門分野は、国際法・国際組織法。

充実した教育内容の大学院

東北大学の公共政策大学院は、2004年に国立の公共政策大学院として最も早く開設され、少人数の学生に対する密度の濃い充実した教育内容を特長としています。皆さんは、「公共政策ワークショップ」等を通じて、単なる知識や技術にとどまらない政策立案過程でのさまざまな課題に自ら挑戦し、問題の解決に向けて取り組む専門的能力を身につけていくことができます。「公」の課題に挑戦する意欲に富んだ皆さんの入学を心からお待ちしています。

中国近代政治史、現代中国政治

教　授　**阿南 友亮**

1972年東京生まれ、慶應義塾大学法学部卒。慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得退学。博士（法学）。2011年に東北大学赴任、2014年より現職。専攻は政治学（中国政治、日中関係）。

地に足のついた解決策を編み出そう

日本が抱える行政課題は多岐にわたります。公共政策大学院での学びの大きな特徴は、それらの課題の中身について分析することに留まらず、具体的な解決策についてじっくり考察し、提案することです。ぜひ本学で仲間たちと一緒に日本が必要とする解決策についてトコトン考え、議論してください。

比較政治学、政治経済学、国際ボランティア論

教　授　**岡部 恭宜**

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。東京大学社会科学研究所、JICA研究所を経て2015年4月より現職。専攻は比較政治学、国際ボランティア論。

多様なレンズから何が見えますか

公共政策を考察するための視点は様々です。実務はもちろんのこと、政治学、法学、経済学、社会学といった複数の学問から焦点を当てることも必要ですし、グローバル化の時代、国際的な視点も欠かせません。研究対象についても、中央や地方の政府の政策のほか、企業、NPO、市民団体といった非国家アクターの戦略や行動に目を向けることが求められます。本学はこうした多様なレンズを用意しています。是非覗いてみて下さい。

行政法

教 授　**大江　裕幸**

山形県出身。東京大学法学部卒業。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。信州大学講師、准教授を経て2021年4月より現職。専攻は行政法。

公共政策実現のツールとしての行政法

皆さんは、行政法にどのようなイメージをお持ちでしょうか。公務員試験のために懸命に暗記する（した）法律科目の一つといったところでしょうか。行政法は、法解釈論としての側面だけではなく、制度設計論としての側面を有しており、公共政策を考える場合には後者の側面が特に重要になります。法的な可能性と限界を見極めつつ、公共政策実現のツールとして行政法を使いこなす姿勢と能力を修得されることを期待しています。

政治思想史

教　授　**鹿子生 浩輝**

1971年福岡県生まれ。西南学院大学法学部卒、九州大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程修了。博士（法学）。2017年4月より現職。専門分野は政治思想史。

実践的判断のための哲学的探求

私は主に「公共哲学」という科目を担当しています。この科目は、公共政策を提言する際の哲学的基盤に関心を寄せる分野です。実践的な政策は、そもそもどのような政治的価値に基づいているのか、その価値判断それ自体が適切なのか。こうした根源的な問題の自覚がなければ、具体的な提言も無益となるかもしれません。公共哲学は、こうした理論的・哲学的側面に正面からアプローチする学問であり、これこそ大学院で探求されるべき知的営為の一つだと思います。

行政法

教　授　**北島 周作**

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。博士（法学）。成蹊大学法学部准教授、東北大学法学研究科准教授等を経て、2015年12月より現職。専攻は行政法。

地道な基礎トレーニングの必要性

公共政策大学院に入ってこられる方は、公務員となって政策の企画立案をし、社会問題を解決したいという方が多いと思います。しかし、例えば、打つ練習、投げる練習だけでは野球はうまくならず、筋力トレーニングやランニングを必要とするように、政策を企画立案し、それを実施するためには、基礎となる理論や道具となる法律に関する理解を深めることが不可欠です。公共政策大学院でこうした基礎トレーニングを行ってくれることを期待しています。

都市法政策

教　授　**島田 明夫**

1980年東京大学経済学部卒、2007年東京大学博士（工学）、1980年旧建設省入省、住宅宅地政策、環境政策、経済政策、産業政策、在外勤務（在英国大使館）、防災対策などに従事し、関東地方整備局用地部長、四国地方整備局次長を勤めた。その後、東京大学大学院法学政治学研究科客員教授、政策研究大学院大学教授を経て、2010年8月より本学教授、、2014年4月よりパーマネント教員。

被災地を回って「考える足」になろう！

災害対策の課題と解決策は、災害現場にあるのです。被災地の大学の使命として、被災地の声に耳を傾けて、頭ではなく足で考えることによって、実態に即した解決策を見つけ出さねばなりません。あわせて、人口減少社会に対応したまちづくりの在り方も考える必要があります。「考える足」となって、幅広い見識と現実的な政策立案のできる人材に育っていただきたいと願っております。

農林水産政策

教　授　**仙台 光仁**

神奈川県出身。東京大学経済学部卒業。1991年農林水産省入省。長崎県諫早市、在ロシア日本国大使館、欧州連合日本政府代表部、スポーツ庁を経て、2018年より現職。

行政や教員に挑め

国内外の重要課題に対する既存の政策を検証し、改善点はないのかを考え抜き政策提言する。本大学院で学ぶことで、皆さんにはその「力」を身につけることができます。実際には社会に出てから発揮させることとなりますが、相手先に「目を見張る提案」、「職員として採用したい」と言わしめる瞬間、教員が痛いところを突かれたと唸る瞬間などで体感してもらいます。行政や教員に挑む、そうした気概のある人にこそ門を叩いていただきたい。その後は、先輩に続いて未来を背負って立つ社会人に成長するよう、教員一丸となって全力で後押しします。

研究者教員　実務家教員

国際関係論
教　授　戸澤 英典

1966年岩手県生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。エッセン総合大学留学、EU代表部専門調査員、大阪大学法学部講師・助教授を経て2005年4月に東北大学助教授、2010年7月より現職。2014年から2016年まで公共政策大学院長。

手づくりで進化・発展する大学院

日本では初めての試みであった「公共政策ワークショップ」を中心とする本大学院は、教員・学生一体となって手づくりで練り上げ、今なお自らを進化・発展させていると自負しています。少子高齢化や格差社会の進行による諸問題に直面し、さらに日本をとりまく国際状況はますます険しさを増していますが、この難しい時期だからこそ、望ましい将来像を構想し具体的な政策・施策に練り上げ実現していく、そんな人材を数多く輩出すべく力を尽くしたいと思っています。

防災政策、事業継続計画
（国土交通省出身）
（本務：災害科学国際研究所）
教 授（兼務）丸谷 浩明

1983年東京大学経済学部卒。建設省入省後、内閣府防災担当企画官、京都大学経済研究所教授、（財）建設経済研究所研究理事（東京工業大学特任教授を兼務）、内閣府防災担当参事官、国土交通省国土交通政策研究所政策研究官を経て、2013年10月より現職。経済学博士。

東日本大震災の被災地で防災を学ぶ

東北大学は、東日本大震災の被災地の唯一の「総合大学」です。また、東北はいまだ復興の途上で、問題が続いています。2015年3月に仙台で開催された「国連防災世界会議」で「仙台防災枠組」が採択され、世界から注目されている中、この地でぜひ防災を学びましょう。身近な防災の知恵から、若者の地域の防災での役目、そして防災から見た政府・自治体の政策枠組みまで、視野を広げてください。

行政学
教　授　西岡　晋

1972年東京都生まれ。1998年早稲田大学社会科学部卒業。早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程単位取得退学。金沢大学法学類准教授、同教授を経て、2015年10月より現職。専攻は政治学・行政学。

公共政策を考え抜く

公共政策とは、理想と現実のあいだのギャップであるところの「問題」を解決して、理想の社会に少しでも近づけるためのさまざまな取組のことを指します。社会には解決が求められている問題が溢れています。にもかかわらず、なぜ問題は放置されたままなのでしょうか。問題を解決するためにはどうすれば良いのでしょうか。そもそも、「理想の社会」とはどのような社会なのでしょうか。東北大学公共政策大学院で一緒に、そして徹底的に考えてみませんか。

労働法
准教授　桑村 裕美子

鳥取県出身。
東京大学法学部卒業。
同大学院法学政治学研究科助手を経て、2007年より現職。博士（法学）。

困難な問題にどう向き合うか

社会の問題は複雑で、簡単に「解決策」を導き出すことはできません。しかし、現在の政策でうまくいっていないならば、何かできることがあるはずです。本大学院の様々な授業を受講しながら、1年単位の長期にわたり困難な問題に向き合い、仲間とともに一つの結論を導くという経験をしてみませんか。単なる思いつきではなく、しっかりとした制度理解に基づく政策立案の手法・プロセスを学ぶことができるのが、本公共政策大学院です。

国際法
教　授　西本 健太郎

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。博士（法学）。2019年8月より現職。専門分野は国際法・海洋法。

変化する時代の中で本質を見極めたい

「これまで通用してきた方法が、これからも通用するとは限らない。」少子高齢化による社会の変化や、経済のグローバル化による産業構造の変化といった様々な変化の中で、そうした局面は今後増えていくことでしょう。変化する時代の中では、過去のやり方にとらわれず、表面的な新しさにも惑わされず、課題の本質を的確に見極めることが一層重要になります。東北大学公共政策大学院では一つの課題と徹底的に向き合うための場を用意して、皆さんをお待ちしています。

租税法
准教授　藤原 健太郎

東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻修了。
東京大学大学院法学政治学研究科助教、
同講師を経て2021年4月より現職。

理論を学び社会に還元する

本学公共政策大学院では、基礎理論を学ぶということも重視しています。公共政策の実践では、理論的思考を要求されることは少ないかもしれません。しかし、判断に困るような限界事例において、理論は物凄い力を発揮します。皆さんが、公共政策の担い手として存分に活躍できるように、研究者の立場からサポートしてまいります。

社会福祉政策
教　授　橋本 敬史

1993年厚生省入省。
社会・援護局、保険局等での勤務のほか、富山県庁、内閣府沖縄振興局等に出向。政策企画官（情報化担当）、老健局介護保険計画課長を経て、2019年8月より現職。

公共政策の実践的思考力を学ぶ

公共政策の立案に当たっては、行政と民間団体・住民の役割を客観的に把握し、法律や予算を用いて課題解決に向けた方策の実現を図ることになります。また、時代や現場のニーズに応じて政策を不断に見直し、国民に分かりやすく伝えること、昨今では新型コロナウイルス感染症やデジタル化に適切に対応することも必要です。公共政策ワークショップをはじめとする授業を通じて、こうした視点や実践的思考力を学んでいただきたいと思います。

行政法
准教授　諸岡 慧人

東京大学大学院法学政治学研究科
法曹養成専攻修了。東京大学大学院法学政治学研究科助教を経て、2020年4月より現職。

確かな基礎に根差した実践を

みなさんは、本大学院の目玉である公共政策ワークショップにおいて、経験を積んだ実務家教員の指導のもと豊かな実践の機会を与えられます。しかし、多くの研究者教員が運営に携わっていることもまた本大学院の魅力の一つであると私は考えます。講義や演習において、基礎に立ち返って熟考する機会をみなさんに提供できるよう、一研究者として努力します。仙台という魅力的な街で共に学びましょう。

公共政策大学院長
教 授　飯島 淳子（行政法）…… 2・6ページ

教 授　今西　淳（外交政策（外務省出身））…… 7ページ

教 授　廣木 雅史（環境政策、環境法）…… 6ページ

教 授　伏見 岳人（日本政治外交史）…… 7ページ

特長 3

少人数制による
キャリア形成支援

教員との近い距離感、実務家教員も含めたキャリア形成支援

POINT

公共政策ワークショップⅠ・Ⅱの指導教員が少人数の学生を受け持ち、学修面での指導だけでなく、社会に送り出すという視点からもきめ細かくサポートします。

明日の日本の担い手を送り出すために

東北大学公共政策大学院では、1学年30名の学生に対し、公共政策ワークショップ、基幹科目などの担当教員だけでも10名以上の教員がインテンシヴに担当し、きめ細かな教育・指導を実施しています。また、学生一人一人にアドバイザー教員がつき、履修相談・進路相談を定期的に行っています。さらに、国家公務員総合職を志望する学生については、希望者を対象に官庁訪問を想定した面接指導を実施するなど、中央省庁出身の実務家教員の強みを活かした取組も行っています。

我々は、学修面だけでなく、修了後の進路に関しても、学生のよき相談相手、よき理解者、かつ、よき指導者でありたいと考え、教室の内外を問わず、日々学生と接しています。

在学生から

己を鍛え抜く場所

山梨県出身
津田塾大学学芸学部国際関係学科卒業　清水　比那（2020年度入学）

「新しい日常」の中、数々の障壁を仲間と共に先生方の手厚い支援を受けながら乗り越えてきました。一つひとつの壁と向き合う際には、時として多大な労力も必要とされましたが、正答のない課題について深く考え、課題解決の糸口を探し続けた経験は、今後の人生に大いに活かされると信じています。また、当大学院では、学内外を問わず多くの方々と意見を交わす機会に恵まれます。様々な立場からの考えに触れ、視野を広げることができる素晴らしい環境下で、刺激的な旅へ出かけてみませんか。

Campus life キャンパスライフ

2021年6月現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、芋煮会等の懇親行事は行っておりません。
東北大学公共政策大学院では感染症対策を講じています。本冊子の集合写真でマスクを着用していないものは、撮影のために一時的に外した場合、2020年以前に撮影されたもの等です。

働きながら学び直しを希望される社会人の方に

東北大学公共政策大学院には、地方公共団体や民間企業等に勤務しながら、政策立案や企画能力の向上、知識のブラッシュアップ等のために学んでいる社会人学生が多く在籍しています。

仕事と学業の両立を実現し、日々、成長を続けている社会人学生の皆さんを紹介します。

地方議会議員

髙橋　聡輔　宮城県出身（2020年度入学）

東北大公共政策大学院を選んだ理由

私は、東日本大震災後の2011年8月から、地元宮城県加美町の議会議員として行政に携わってきました。様々な研修等に参加し、議員のなり手不足の問題や、地方議会の政策立案や提言の件数の少なさを改めて感じていました。10年を迎えようとしている頃、自らのスキルアップのために何かしなければと思っているときに、東北大学公共政策大学院の受験を決意しました。決め手は、しっかりとした知識を得るための研究者教員はもちろん、実務家教員の経験を踏まえた講義・指導を受けられることや、長期履修の制度があることでした。

仕事との両立について

仕事と議員活動、大学院の「三足の草鞋」ですが、長期履修を活用しています。最初はワークショップや必修科目など両立の不安はありましたが、社会人の仕事に対して理解のある先生方や、仲間の協力で何とか両立できています。またコロナ禍という事で、逆にオンラインでの講義も多く、通学時間も気にせず受講する事ができました。大学院に来ていたことで、コロナ禍でどのような対策をすべきか、またネット環境の活用方法をいち早く知ることができたことも、非常にいい経験ができたと感じております。

現在の学習内容

1年目は、ワークショップ・必修科目の履修メインに進め、ワークショップでは、農業(農地・担い手の課題)と地域振興策について調査を進めてきました。2年目は基幹科目を中心に進めて、仕事とのバランスを考えながらリサーチペーパーのための課題抽出や基礎を固めていき、長期履修の中で計画的に学習していきたいと思っております。

今後の抱負

地方創生による地域振興の効果や課題について、主観的・客観的の両面での視点からアプローチし、地域の取組について考えていきたいと思います。またコロナ禍により対面での議論が少なくなってしまっていますが、ぜひ若い同期の学生や、先生方と積極的に議論をし、少しでも自分の仕事にも貢献できるような学びをしていきたいと思います。

1週間のスケジュール

2020年前期・後期（黄色…前期のみ、ピンク…後期のみ、オレンジ…通年）

	月	火	水	木	金	土
1時限						
2時限						
3時限	【講義】公共政策基礎理論	【公共政策ワークショップ】なぜ地域振興にとって農業が重要なのか?農地と担い手の課題に関する研究	【講義】震災復興における政治・行政	【講義】防災法		【講義】経済産業政策特論I（隔週）
4時限	【講義】政策調査と論文作成の基礎					
5時限					【講義】公共政策基礎理論	
6時限						

政策分析の手法（前期集中）
この他、講義のない時間帯は勤務（公務または自営業）

2021年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限	【講義】実務政策学B 農林水産政策				【講義】地域社会と公共政策論II 地域農林水産政策	
2時限						
3時限					【講義】実務政策学A 環境政策	
4時限						
5時限						
6時限						

この他、講義のない時間帯は勤務（公務または自営業）

団体職員

猪股 佳那子　宮城県出身（2019年度入学・2020年度修了）

東北大公共政策大学院を選んだ理由

現在、大学の国際関連部署で勤務しています。普段の勤務では、国ごとに違う教育システムや法制度、周囲を取り巻く環境の急速な変化等に対応する必要があり、前例踏襲では立ちいかない場面が多々出てきます。もっと世の中の動きについて学んでいかなければと、半ば焦りにも似た思いに駆られていました。東北大学の公共政策大学院では、政策形成に関する実務的な授業と学術的な内容の授業とを同時並行で体系的に履修できるカリキュラムが組まれており、そこに魅力を感じ入学することを決めました。もちろん、長期履修制度により、フルタイム勤務を続けながら通学できるという点も重要なポイントでした。

仕事との両立の状況

1年次で必修のWS Ⅰは有給休暇を使い、その他の授業は勤務を終えた18時以降や休日に、無理のない範囲で履修しました。勤務先のリフレッシュ休暇制度を活用し、台湾への海外調査にも参加することができました。2年次でのWS Ⅱはオンラインで指導いただいたため、通学時間も節約でき、仕事との両立上の負担が軽減されました。

今後の抱負

高等教育に関わる研究を通して、政策がどのように形成・実施・評価されるのかに関する知識を得ることができました。大学は行政と密接にリンクしており、国内外の政策変更の影響を多大に受け得る組織です。大学職員として、政策をどう巧みに活用するかという視点を持つことは重要であると感じています。大学院生活を通して得た考え方や知識を、少しずつでも日々の業務に反映させていければと考えています。

1週間のスケジュール

2020年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限						休　み
2時限						
3時限			【講義】防災法			
4時限	【講義】政策調査と論文作成の基礎	【講義】日本政治外交史演習Ⅰ				
5時限						
6時限						

この他、講義のない時間帯は勤務

2020年後期

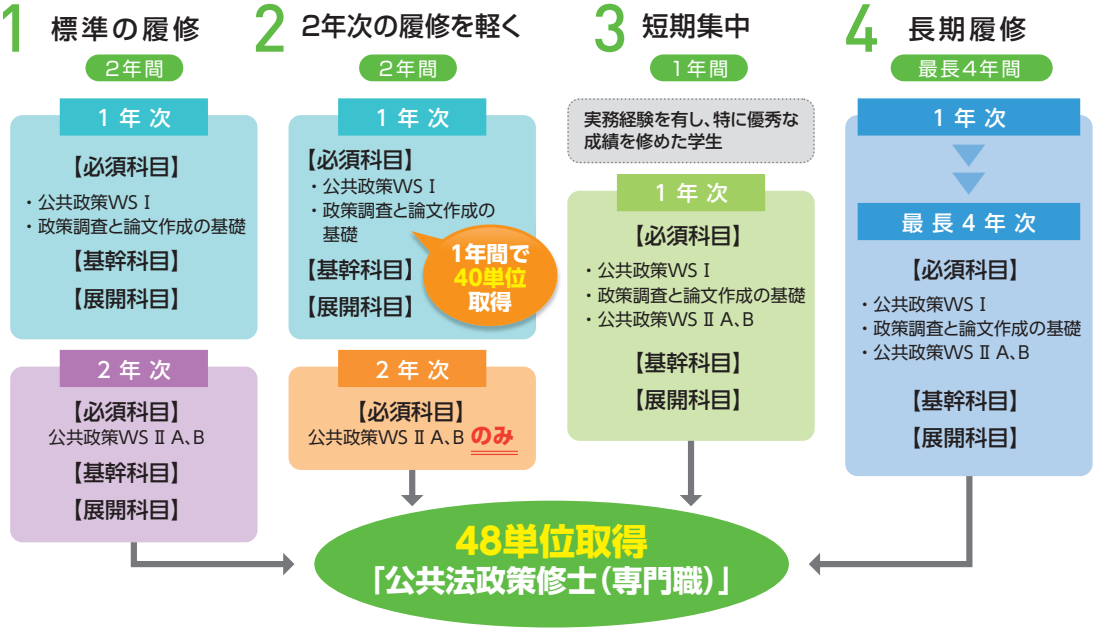
	月	火	水	木	金	土
1時限						休　み
2時限	【講義】公共哲学					
3時限					【講義】政策過程の歴史分析	
4時限						
5時限					【講義】（隔週）公共政策特論Ⅱ	
6時限						

この他、講義のない時間帯は勤務

他にも、市議会議員、町議会議員、国家公務員、市役所職員、民間企業社員、大学職員、NPO職員として働きながら又は休職して、当大学院で学んでいる学生の皆さんがいます。

社会人学生の履修モデル

東北大学公共政策大学院では、学業と仕事を両立できるよう、社会人学生向けに複数の履修コースを用意しています。2年間での修了のほか、最短で1年、最長で4年での修了が可能です。



1 標準の履修　2年間

2年間で48単位を取得し修了します。

2 2年次の履修を軽く　2年間

公共政策WS Ⅱ以外の40単位を1年次に集中的に取得します。2年次は、仕事の状況に応じて通学・メール等で担当教員の指導を受け、公共政策WS Ⅱの8単位を取得し修了します。

3 短期集中　1年間

修了に必要な48単位を1年間で取得し修了します。公共政策に関する3年以上の実務経験がある学生を対象にしたもので、優秀な成績を修めた場合に修了が認められます。

4 長期履修　最長4年間

履修年限を最長4年間まで設定できます。授業料の支払総額は、標準履修（2年間）の場合と同額に設定されています。

! 地方公務員の方へ　～「自己啓発等休業制度」のご確認を ～

地方公務員法には、条例に基づき職員が大学等課程の履修のために休業することができる「自己啓発等休業制度」の規定があります。休業期間中の給与は不支給ですが、学業に専念できます。条例が制定されている場合、一般的には、以下のような名称・内容になっています。

- ☑「職員の自己啓発等休業に関する条例」といった名称の条例
- ☑大学院も履修先として規定
- ☑休業期間は原則２年間

是非、ご所属先の条例の有無、内容についてご確認ください。

座談会 公共政策を学び始めて

この座談会は、2021年4月27日、教員の呼びかけに応じた有志の1年生4名、2年生2名が東北大公共政策大学院での経験をオンラインで語り合ったものです。

高村：例年なら4月にM1とM2の交流会をやっていたようなのですが、コロナの影響で僕たちの時も出来ませんでした。M１の方々と会うのは初めてですね。ではまず、東北大学公共政策大学院への志望理由を教えてください。

賀数：学部時代は地方公務員を目指して勉強をしていたのですが、学部生時代は座学でしか勉強していないので、もっと実践的な力を身に付けたいと思っていたところに、公共政策大学院の存在を知りました。いろいろ調べていたら、一つの事象に対していろいろな視点からアプローチして、課題を解決していくという点にすごく魅力を感じて志望しました。あとはこの大学院が「実現可能性」をすごく意識しており、そこにリアルさみたいなものを感じました。東北大学を選んだのは、父が消防士で、東日本大震災の時に市町村に出向で防災担当をやっていたので、防災や災害対策にも興味があり、東日本大震災を経験した東北で学びたいと思い志望しました。

議論を通し具体的な解決策まできちんと出すという点をとても面白いと感じ、大きく惹かれました

來山：私は学部が法学部だったのですが、結構インプットの学びが多くて、アウトプットを積極的に行う学びをしたいと思い大学院への進学を決めました。特に東北大学公共政策大学院ではワークショップでのグループ活動が前面に押し出されていて、議論を通し具体的な解決策まできちんと出すという点をとても面白いと感じ、大きく惹かれました。

現場の声に触れるワークショップを経験して公共政策の道に踏み出すことが、自分の考えと一番合っているのかな

住吉：僕は国家公務員を志望していて、学部生のときにインターンや省庁の説明会に参加したのですが、そこで現場の声を聞いて政策を作ることの重要性を色々な方から伺いました。それを聞いて、このまま学部卒で組織の中に入ったとして、一番最初の積み上げの大事な時期に、現場の声を拾うという一番大事なことに触れられないまま政策を立案する側になるのはどうなのかなと思いました。働きながらでは外の人と交流する機会は確保しづらい、というお話も公務員の方からお聞きしました。東北大学公共政策大学院には、現場の声に触れながら政策立案を1年間通してやるワークショップというカリキュラムがあって、それを経験して公共政策の道に踏み出すことが自分の考えと一番合っているのかなと思いました。政策を作る難しさなど、政策の奥深さや構造的な課題などをしっかり学問研究で学んでおこうと思ったのも、大学院に進学するきっかけでした。

針生：私は今、地方自治体に勤務しているのですが、働いていると、課題の一番先端のところでしか関われず、あまり全体を見る機会がないんです。もう少し課題の全体が見たいなと思い、大学院を志望しました。社会人入学は今年も例年くらいだと聞いているので、10人くらいだと思います。

小林：入学して１ヶ月。今どんな活動をしていますか？

住吉：ワークショップで自治体の方へのヒアリング調査の準備をしていますが、体感としては結構忙しいですね。僕らのワークショップDは東日本大震災からの復興の総合研究をしていて、震災の時に何があったか新聞や本、資料からインプットしているのですが、その情報量が膨大です。それらに基づいたディスカッションも学部の時以上に高い質のものを求められ、そのギャップに慣れるのが大変な1ヶ月でした。通常の日程であれば今日まででまだ3回分だけのはずなのですが、オンラインでやっている関係で火曜日に2時間、残りの1時間は土曜日の週2回に分けて行っているため、すでに6回分のワークショップを行いました。それぞれの回で出される課題が変わるので、6回分の課題を短い期間でこなすのは結構ハードでした。

インプットはかなり重要。関連する法律や政策はしっかり学んでおいた方がいい

高村：政策提言を行うにあたって、インプットはかなり重要なので早いうちにワークショップに関連する法律及び政策はしっかり学んでおい

■ 司会者

高村 泰成
宮崎県出身
宮崎大学出身
（2020年度ワークショップA所属）

小林 寛子
山形県出身
東北大学出身
（2020度ワークショップD所属）

■ 参加者

賀数 基仁
沖縄県出身
琉球大学出身
（2021年度ワークショップD所属）

來山 歩美
広島県出身
東京大学出身
（2021年度ワークショップB所属）

住吉 泰誠
群馬県出身
東北大学出身
（2021年度ワークショップD所属）

©コーエンズ

針生 真依
宮城県出身
地方公務員勤務
（2021年度ワークショップC所属）

た方がいいです。ただ、報告会が近づいてくるとみんな目が死んでくるから、休めるのは今のうちですよ(笑)。

同じテーマでも、参加者が持っている興味や課題意識がそれぞれ違って面白い。これから議論していくのが楽しみです

來山：ワークショップBでは、感染症対策や今回の新型コロナ流行に伴ういろいろな課題について勉強しています。この1ヶ月間はやはりインプットが主で、飯島先生からは行政法の観点から、橋本先生からは厚労省での取組みについて説明を受けました。今日の午後の授業では各自で調べてきた内閣官房や宮城県、仙台市の動きについて発表することになっています。感染症という同じテーマでも、参加者が持っている興味や課題意識がそれぞれ違う点がとても面白くて、一つのグループとしてまとめる難しさはありますが、これから議論していくのが楽しみです。
賀数：住吉くんと同じワークショップDなのですが、自分は東北地方出身ではないので、まずは被災地域の地理的な関係図から覚えていくのに必死でした。石巻や気仙沼など有名なところはわかるのですが、マスメディアがあまり取り上げなかったところでも大きな被害のあった被災地があって、そこの地理関係を覚えるのに苦労しました。あと、皆さんの議論のレベルが本当に高くて、今の段階だと刺激を受けまくっているので、最終報告までには自分も刺激を与える側になれればと思い、今は必死に食らいついているところです。

チームワークが大事。どれだけ仲間を頼って一緒に作業を進めるかということが、本当に重要になる

高村：ワークショップではチームワークが大事になります。個人作業もありますが、中間報告会、最終報告会と進むにつれて、どれだけ仲間を頼って一緒に作業を進めるかということが、本当に重要になるので。今思い返すときついことも多かったですが、貴重な経験でしたね。
針生：ワークショップCは、防災分野を通じた日本の国際協力に関する研究をやっており、今は皆さんと同じく基礎固めの段階です。JICAの職員の方々に毎週来ていただいて、質問しながら情報を蓄えています。私は一番年上なので、若い人たちの新鮮な感性を聞きながら刺激を受けているところです。私はITが詳しくないので、そのあたりで足を引っ張っているかもしれません。Google Classroomってなんだ?(笑)って思いながら教えて貰っています。
高村：針生さんは長期履修生ですか?
針生：そうです。3年で修了することを考えています。

社会人入学なので、学部から上がってきた学生と一緒に議論をしていると、「あ、そうなのか」という気づきがあります

小林：私も社会人入学なので、学部から上がってきた学生と一緒に議論をしていると「ああ、若い」と思いながら勉強になりますね。なんかフレッシュな感覚を得て、「あ、そうなのか」という気づきがあります。
高村：社会人学生がひとりいるだけで、雰囲気も出来上がるものも全然違ってくると感じました。私の所属したワークショップにも社会人学生の方がいらっしゃいましたが、実際に社会で働いてきた立場からアドバイスを貰って報告書の内容をつくりえたり、仕事や人生の話を聞くと、ああ深いなぁと思いましたね。年齢差とか最初は気にしていたのですが、調査を繰り返すうちに全く気にならなくなりました。最後のほうでは、普通にイジってましたね(笑)。

公共政策特論は貴重な授業。実際に中央官庁で働いている方のお話をしっかり聞ける機会はなかなかない

小林：ワークショップ以外の授業でこれは!というものはありますか?
住吉：公共政策特論ですね。実際に中央官庁で働いている方のお話を、あそこまでしっかり聞ける機会はなかなかないです。自腹で東京に省庁の説明会に行っても、お話を伺うことができる時間は１時間あるかないかですから、それを授業何コマもかけて聞けるのはありがたいです。学部時代に志望先ではなかった省庁のお話を聞けるというのも新鮮です。
高村：特論おもしろいですよね。ただ、私の苦い経験として、特論のレポートはとても苦労したので、興味のあることはしっかりメモをとって、早めにレポートの準備をしておくことをおすすめします。他の科目でも、公共政策大学院はほとんどがレポートによる成績評価ですので授業で気になったものはすぐに調べることを繰り返すと、後々楽になるかもしれません。このようなことも含めてM1の人たちに絶対伝えたほうがいいことが、山ほどあります。
小林：コロナがなければ、いつもはもっと縦の繋がりがあって、どの授業がいいなど伝えられるんですけどね。
高村：本来なら交流会などを通じていろいろ伝えていきたいんですけど、私たちもまったく知らなかったので、同じ苦しみを味わってください。
一同：(笑)。

社会に出たら間違いなく求められるような実社会で直接活きる能力を学べることも、本大学院の大きな魅力のひとつ

賀数：自分は卒業論文がない学部だったので、ちょっとそこを不安視していたんですけど、必修で政策調査と論文作成の基礎という授業があり、そこで1から調査手法や論文作成について教えてくれるので、すごく助かっています。プレゼンテーションについても、社会に出たら間違いなく求められるような実社会で直接活きる能力を学べることも、本大学院の大きな魅力のひとつかなと思います。
來山：橋本先生の「地域福祉政策」の授業です。今年は少人数で学生が3人だけなのですが、その中で各自が好きなテーマを扱います。地域の福祉政策なので、国単位よりはもう少し具体的な福祉政策を調べて、発表して議論しています。法学部の社会保障法とはちょっと視点が変わりますし、橋本先生は地方自治体への出向もなさった厚労省出身の実務家教員なので、そのお話を聞きつつ議論が出来るのも楽しみです。
高村：少人数の授業はいいですよね。しんどい時もありますけど。学生数が少ないので先生との距離感が近いのは魅力だと思いますね。ちなみに私が受講していた授業の１つが実質マン・ツー・マンで、いい意味ですごく鍛えられましたね。
一同：(笑)。
針生：私は実はまだ、あまり授業を受けられていないんです。ワークショップだけは仕事の休みを取り、出席できているのですが、今年はワークショップをこなすので精一杯で、2年3年で授業を受けられればいいなと思っています。
高村：もう卒業された社会人の方のケースですと、１年目でワークショップと政策調査と論文作成の基礎を受講されて、2年目と3年目で仕事の空き時間に授業を取っていらっしゃいました。
針生：じゃあきっと大丈夫ですね。

小林：それでは「今後の抱負と将来のビジョン」を教えてください。
住吉：こういうことをやりたいというビジョンはあるんですけど、それを実現するためにはどこがいいのかというのが、まだはっきりわからないんです。ただ、抱負としては、これからの時代に合った政策の在りかた

を模索していきたい、ということを考えています。立場に応じて公共政策の見方は変わるというのをある本で読んだので、あまり肩書などに拘らずに、ひとつのポストや職業にずっといるのではなく、公務員とかシンクタンクとか、あるいは企業とかいろいろな場所を経験して、これからの政策の在り方というものを模索していきたいと考えています。学問的な視点から物事を見てみたいという気持ちもあるので、現場と学問をドッキングできるのであれば、シンクタンクなどが一番いいのかなとは思っているんですけど、どうなるのかは今後の経験を踏まえて考えたいです。

今の勉強が仕事に直結するかどうかはわかりませんが、どんな勉強も無駄にはならないという気持ちで取り組んでいます

針生：私の場合は人事異動で次の部署が決まってしまうので、私がこれをやりたいというものが叶うかどうかはわかりません。だから、今やっている勉強が仕事に直結するかどうかはわかりませんが、直結するから勉強するというよりは、どんな勉強も無駄にはならないという気持ちで取り組んでいます。発表の仕方一つとっても学ぶところは多いですし、ワークショップで学んでいる防災を通した国際協力についても、今の業務と直結するわけではないけれど、どこかで、遠回りして繋がるんだろうなと思っています。

來山：あまりまだ固まっていなくて、国家公務員やシンクタンク、調査研究をするようなところか、あとは可能性としては、公共政策からは少ないと思うんですが、博士過程なども少し視野に入れているところです。住吉さんがおっしゃったように、公共分野を志向するのでも公務員だけではなくいろいろな関わり方が出来るので、しっかりと視野を広げていきたいと考えています。やりたいことだけではなく、何が自分に向いているのか適性といったところも、院での勉強を通して見つけていけたらなと思っています。

高村：おっしゃるとおり、ワークショップや授業を通じて幅広い視野を得ることができます。就職に関しても公務員に限らず、さまざまな選択肢が広がると思います。

賀数：まずこの1年は、ワークショップを納得いくまで追い求めたいと思います。そうすれば、力というものがついてくるのかなと思っているので、とりあえずはワークショップを頑張ります。卒業後の進路としては、2年間で得た知識と経験を生かして、地元に帰って地方公務員として効果的な政策を提言していきたいと思っていたんですけど、皆さんがおっしゃっているとおり、公務員だけが公共を担う主体ではなくなってきていると思われます。つまり、公共の主体も近年多様化が急速に進んでいると思います。そのため、せっかく公共政策大学院で身につけることができる力は民間企業にも活かせる、汎用性の高い力だと思いますので、今後は視野を広げて、いろんなところを見ていきたいなと思います。

小林：ありがとうございます。最後にこれから入学を考えている方たちに向けて、みなさんの熱いメッセージをお願いします。

來山：やはり公共政策大学院ですと、授業の内容はもちろん、一緒に学ぶ学生も社会人出身やいろんな学部出身の方がいますし、先生方も研究者であったり実務家であったり本当に幅が広いので、この2年で視野が広がるのではないかというのは、今の時点でしっかりと実感しているところですし、そこは一番の魅力だと思います。

針生：私自身が上手く最後まで走り切れるかわからない状態でメッセージというのは難しいですが、大学院に限らず、いくつになっても学ぶ気持ちは必要だと思います。そういう点では、知識だけでなく実践的なことを学べるこの大学院はすごくいいのではないかと思います。社会人はとても時間の制約があり大変なのは事実ですが、仕事と勉強のメリハリをつけて生活できている気がします。それに、学部生の仲間たちが随分支えてくれますし。

賀数：学部卒で新社会人として働いている同級生を見ると、若干遅れたかなと思うこともありました。ですが大学院に入学してみたら、社会人と同じような経験も提供されているので、即戦力として使える人材になろうと思えばなれる環境が整っています。ぜひ少しの勇気を振り絞って飛び込んでみてください。社会人とはまた違った、経験・知識など得るものは多いのかなと思いますので。

住吉：社会が変われば政策の在りかたや役割も変わりますし、また自分の肩書や立場が変われば政策へのアプローチも変わると私は考えています。なので、政策の在りかたや携わり方にこれだ、という正解は無いと思います。ですので、社会に出る前にこうして政策に関するトレーニングを積むことで、政策に対しての自分なりの哲学を持って臨めるようになることが、ここの大学院で学ぶ一番の意義なのではないでしょうか。理想と現実のトレードオフを乗り越えることのできる信念を養う機会は、社会に出る前にはなかなかないと思います。この公共政策大学院は、政策について「こうしたいんだ」という信念のある人にとっては、それをより強いものに鍛えてくれると同時に、その信念をどう社会に生かすか、ということを教えてくれる有意義な場になると考えています。政策や社会問題に強い信念をお持ちの方は、ぜひ東北大学の公共政策大学院で、みっちり学んでいただければなと思います。

高村：ありがとうございました。みなさんがおっしゃったように東北大学公共政策大学院は、勉強をする場でありながら自身を大きく成長させてくれるカリキュラムが構成されています。現に私も1年間ここで学んで視野が大きく広がるとともに、先生方や共に学ぶ仲間たちとの出会いが私を支えてくれました。宮崎から遠い東北の地に飛び込んできて不安もありましたが、ここで学ぶという選択は間違いではなかったと実感しています。

小林：志は高く、でも着実に前に進もうという皆さんのお話を聞いて、感動しました。私も、気持ちを新たに学んでいきたいと思います。これからワークショップなど大変なことがたくさんあると思いますが、一緒に乗り越えていけるといいなと思います。今日はありがとうございました。

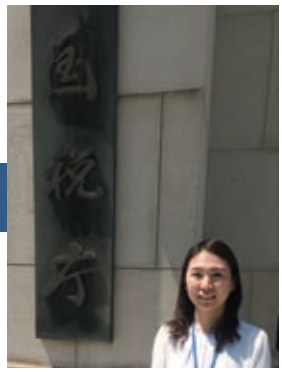
2021年度の入学者の内訳

- 学部卒業後入学 23名
- 地方議会議員 1名
- 公務員 3名
- 民間企業職員 1名
- 法人職員 1名

合計29名

さまざまなフィールドで活躍する修了生

公共政策大学院での“醸造期間”から15年を経て



国家公務員

沼田 千明
（2006年度修了）

国税庁調査査察部調査課
宮城県出身、東北大学法学部卒

「君たち、スケジュール感が一番大事なんだよ!」「問題の本質は？」「政策の実効性は？」「効果測定の方法は？」…これらは、私がワークショップやリサーチペーパーに取り組む中で、担当教授から言われ続けたことです。

あれから15年が経ち、霞が関で40人の部下を持つようになった私は、「スケジュール感は？」「効果測定は？」など、まさに教授に言われ続けたことを、日々、部下に問うています。

無我夢中だった当時は、大学院での経験が今後どのように生かされるか、正直具体的なイメージを持てませんでしたが、行政官として、自分で考え企画できる範囲が広がるにつれ、大学院での経験の価値とその質の高さを実感するようになりました。それはまるで赤ワインのように、年数を重ねるほど深い味わいと芳醇な香りを含みながら価値を高め、そして今後も“熟成”されていくものと確信しています。

自ら問題意識を持ちながら調べ、考え、議論した日々は、決して楽ではありませんでしたが、素晴らしい教授や仲間とともに、濃密な“醸造期間”を過ごすことができました。これからも熟成を続け、微力ながらもこの国に貢献していけたらと思います。

公共での日々こそ、一生の宝物

政策金融機関

丹野 将洋
（2013年度修了）

日本政策金融公庫仙台支店中小企業事業
宮城県出身、高崎経済大学地域政策学部卒

気仙沼、陸前高田、石巻、女川、雄勝、牡鹿…私の2012年のスケジュール帳には東北太平洋沿岸の地名がずらりと並びます。復旧復興の課題・問題点を少しでも解決できないか、震災の教訓をいかに活かすべきかなど、現地ヒアリングで得た「生の声」をもとに、尊敬する島田先生をはじめ諸先生方を囲み、戦友と呼ぶべき仲間たちと真剣に議論したワークショップ室での時間は、今振り返っても非常に貴重な時間だったと思います。

今は日本政策金融公庫仙台支店中小企業事業で融資担当をしております。業務において、東北大公共で得た法政策に係る知識や考え方を活かす機会は非常に多いことはもちろん、「政策的な意義はあるか」「その案に実現可能性はあるか」とワークショップ室さながらの検討を心の中で行い、ときには尊敬する島田先生や仲間達が苦笑しているような気すらして、そっと襟を正すこともあります。そういう意味では、ワークショップ室での時間は思い出の中にあるのではなく、今も自分の心の中で続いているのかもしれません。東北大公共での熱い、そして濃い２年間は私の一生の財産となりました。

さまざまなフィールドで活躍する修了生

最前線での戦いに
東北公共での学びを活かす

地方公務員

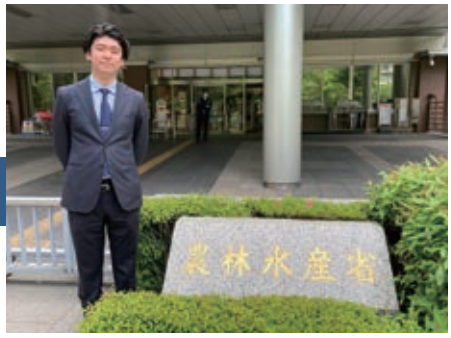
横尾 和希
（2019年度修了）

東京都立広尾病院事務局医事課
山形県出身、京都大学法学部卒業

社会人となった現在から振り返って、東北公共では「どこでも、どの分野でも通用する力」を養成出来たと思います。私は東北公共での２年間で、国際関係、対外政策について研究し、政策提言を行いました。公共政策ワークショップのカリキュラムや学生生活を通し、専門的知識に触れるだけでなく、ヒアリング先との連絡、調整や行事の運営、そしてチームとして１年間ワークショップをやり遂げることを経験しました。

東北公共で得た経験から東京都職員となることを志し、培った実力で念願を叶えることが出来ました。現在は、都立病院の事務職員として、感染症に関する保健所等との連絡、調整や医療安全の推進に向けた取り組みに携わっております。大学院で専攻した対外政策とは一見全く関係のない分野です。しかし、東北公共のカリキュラムで身に付けた、情報収集力や課題解決力、調整力やチームとして働く力は、現在の業務においても強力な支えとなっています。昨今の情勢のため日々の業務は大変ですが、社会のためという使命感と、東北公共の経験があるからこそやっていけていると感じています。皆さんにも、東北公共で学び、一生使える実力、経験を獲得してほしいと思います。

かけがえのない経験



国家公務員

福元 遼太郎
（2020年度修了）

農林水産省消費・安全局総務課
東京都出身、東北大学経済学部卒業

日本の社会課題。認識はしていましたが、実はどこか他人事のように感じている自分がいました。

そんな私が、「少しでも社会課題の解決に貢献したい」そう強く思ったきっかけは、本学での学びにあります。

特に、40件以上のヒアリング調査を行なった公共政策ワークショップⅠの活動は、私にとって非常に刺激的であり、キャリア選択にも大きな影響を与えました。

「課題の先進地域」と呼ばれる東北の各地域に足を運び、肌感覚で課題を捉えたこと、それをもとに仲間たちと幾度も議論を重ねたこと、これらの経験は私にとってかけがえのないものです。

新型コロナウイルス感染症の影響により、社会的混乱が続いていますが、そんな状況だからこそ、本学で得られる「現場感覚」の重要性は増していると思います。

国家公務員としての一歩を踏み出したばかりの私も、本学で学んだ「現場の視点」を忘れずに、キャリアを歩んでいきたいと考えています。

カリキュラム、教員の方々、仲間たち、環境に恵まれた本学で是非、皆様も社会課題に本気で挑んでみて下さい！

就職・進路関係

東北大学公共政策大学院で学ぶことによって、どのような将来が拓かれるでしょうか。

政策プロフェッショナルを目指す人

現　在

国家・地方・国際公務員を志望している。

既に公務員試験に合格している人も

東北大学公共政策大学院（原則2年で修了）

- ●ワークショップで実務体験型学習
- ●公共政策の最先端理論の体系的学習
- ●政策プロフェッショナルに必要な調査・レポート・ディスカッション・プレゼンテーションなどの技法の修得
- ●実務家教員による公務員志望者に対する指導

在学中に公務員試験合格

将　来

◆ 国家・地方・国際公務員

進路の幅を広げたい人

現　在

学部で学んでいる内容だけでは自分の希望する将来の道が見えて来ないと感じている。

東北大学公共政策大学院（原則2年で修了）

- ●ワークショップの実務訓練を通して自分の進むべき道を固める
- ●自分の進路に必要な基礎から最先端までの理論の学習
- ●政策プロフェッショナルや企業マネージメントに必要な調査・レポート・ディスカッション・プレゼンテーション等の技法の修得
- ●指導教員によるきめ細かな進路指導

在学中に公務員試験、民間企業の就職試験などに合格

将　来

◆ 国家・地方・国際公務員
◆ NPO・シンクタンクの政策スタッフ
◆ ジャーナリスト　◆ 民間企業のマネージメント
◆ 博士課程に進学

社会人として一段階上を目指す人

現　在

中央・地方官庁などの職員、地方議会議員等として働きながら“政策プロフェッショナル”としての知識・技法を身につけたいと考えている。

東北大学公共政策大学院
（1年もしくは2年で修了、長期履修（上限4年）で修了）

- ●ワークショップを通じてこれまでの実務体験を見つめ直す
- ●公共政策の最先端理論の集中的・体系的学習
- ●政策プロフェッショナルに必要な最先端技法の修得
- ●指導教員による個人指導の下でリサーチ・ペーパー作成

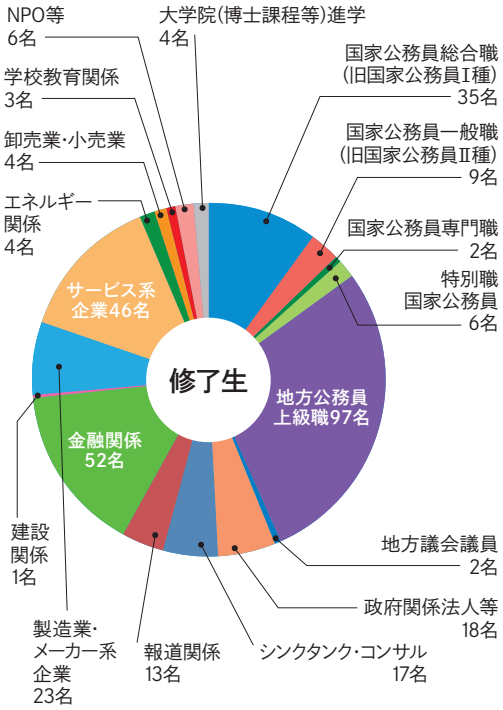
将　来

◆ 元の職場に復帰してキャリア・アップ
◆ 別の職へ飛躍

修了生の就職先・進路としては、中央省庁・地方自治体等の幹部候補生、国際公務員のほか、ジャーナリストやシンクタンクのスタッフ等を念頭に置いています。

ワークショップ等を通じて獲得されるであろう、課題発見に始まり情報収集、解決策の作成検討に至る政策の企画立案に関する様々な能力は、社会人として実務に携わっていく上でまさに有用なものであり、多くの官公庁・企業等において高く評価されるものと考えています。

■ 修了生の主な進路先



●国家公務員総合職（旧国家公務員Ⅰ種）	人事院、内閣府、公正取引委員会、総務省、財務省、国税庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省、防衛省、会計検査院、経済産業省
●国家公務員一般職（旧国家公務員Ⅱ種）	金融庁、公安調査庁、財務省、国土交通省、入国管理局、関東管区行政評価局等
●国家公務員専門職	外務省、関東財務局
●特別職国家公務員	参議院事務局、陸上自衛隊幹部候補生、航空自衛隊幹部候補生
●地方公務員上級職	東京都庁、北海道庁、岩手県庁、宮城県庁、秋田県庁、山形県庁、福島県庁、茨城県庁、栃木県庁、神奈川県庁、愛知県庁、兵庫県庁、沖縄県庁、札幌市役所、仙台市役所、横浜市役所、名古屋市役所、大阪市役所、北九州市役所等
●地方議会議員	仙台市議会
●政府関係法人等	日本銀行、JETRO、国際協力機構、農林中央金庫等
●シンクタンク・コンサル	日本総研、野村総研、富士通総研等
●報道関係	読売新聞社、朝日新聞社、日本経済新聞社、共同通信社、河北新報社、日本放送協会等
●金融関係	日本政策金融公庫、日本政策投資銀行、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、日本生命、明治安田生命、全国共済農業協同組合連合会、野村證券等
●建設関係	東日本高速道路
●製造業・メーカー系企業	三菱重工業、JFEスチール、三菱ケミカル、三井化学、東芝、日立製作所、三井金属鉱業、日本新薬、日本製鉄、三菱マテリアル等
●サービス系企業関係	日本IBM、JR西日本、NTTデータ、ベネッセコーポレーション、ヤマト運輸、JTB等
●エネルギー関係	東北電力、北陸電力、静岡ガス等
●卸売業・小売業	豊通食料等
●学校教育関係	学校法人昌平黌
●NPO等	仙台ひと・まち交流財団等
●大学院（博士課程等）進学	東北大学大学院（法学研究科、医学系研究科、情報科学研究科）

※なお、上記の中には、在学中に就職した者や、社会人として入学し、修了後に復職した者もいます。

勉強、研究をサポートする充実した施設

1 ワークショップ室

各ワークショップごとに、調査研究を進めるためのワークショップ室が与えられています。

所属メンバーは、毎週火曜日午後のワークショップの授業の際に集まって議論を行うだけでなく、いつでも集まり、議論し、資料を作成し、文献を研究することができます。

（令和3年6月現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、ワークショップ室の利用を制限し広い講義室を使用しています。）

2 自習室

エクステンション教育研究棟内に自習室があり、学生は1人に一つの勉学用の机が与えられています。自習室は24時間利用可能です。

3 学生寄宿舎

留学生との共同生活を行うユニバーシティ・ハウス（写真）をはじめとした各種学生寄宿舎を、低額で利用することができます。

奨学金その他の各種支援制度

1 入学料・授業料免除

経済的理由により入学料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業が優秀であると認められる方等については、選考の上、入学料の全額又は半額の免除が許可される制度があります。

また、経済的理由により授業料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業成績が優秀であると認められる方等については、選考の上、授業料の全額、半額又は３分の１の額の免除が許可される制度があります。

これらのほか、入学料や授業料の徴収猶予の制度があります。

2 奨学金

当大学院の学生は、日本学生支援機構奨学金として、第1種奨学金（無利子）、第2種奨学金（有利子）を申請することができます。そのほか、各種奨学金（地方公共・民間奨学団体等）があります。

3 TA制度

一般入試において実施される小論文および口述試験の双方で特に優秀な評価を受けた入学者やそれに準ずる者には、1学年間、TA（ティーチングアシスタント）として、東北大学公共政策大学院における教育活動補助等に従事することで、一定の給与を支給される制度があります（年額80万円の予定）。

在学生から

大学院での学び

宮城県出身
東北大学教育学部教育科学科卒業　岡村　和礼（2020年度入学）

「今後文系でも修士が増える。だから修士は将来的に損にならない。」学部3年時、指導教員から受けた言葉だ。現状、学士で一つの専門を修めた学生は多い。ただ違う専門を学び視野を広げた学生や、専門の異なる学生と提言を作り上げた修士はそういない。本大学院ではこのように労働市場の中で希少な存在となれる環境がある。私は教育学部出身であり、違う専門を学び視野を広げるには相当の時間を要した。しかしTA制度で経済的に余裕が生じ、勉強に集中できた。結局レポート毎に未知の分野を題材にするような1年間を送れた。

入試関係情報

1 アドミッション・ポリシー

東北大学公共政策大学院が受け入れる学生像とは、「公共政策ワークショップ」をはじめとするカリキュラムによって、他の学生と切磋琢磨しながら自己の能力を一層涵養することのできる人物であり、具体的には以下の資質を持つ人物です。

◉学部で学んだ専門知識を基盤としつつ、公務及び公共政策の立案・制度設計について多角的な視点から学習する意欲と基礎的な能力を有すること。
◉討論・交渉・文章作成・プレゼンテーションなどコミュニケーション能力を豊かに持ち、集団作業に貢献できる適性を有すること。
◉公共性への情熱を持ち、公務に対し献身的な資質を有すること。

したがって入学試験では、特定の行政課題に関する基本的な理解とそれに基づき考察する能力を有していることを考査するとともに、「公共政策ワークショップ」において集団作業に積極的に参加する人物であることを面接で審査します。これによって、特定の学部の卒業生に偏ることなく、様々な学部の卒業生や社会人経験を持つ者から多様な学生の受け入れを進めます。

外国人留学生が本学の教育プログラムに参加するには日本語能力試験N1で150点相当の日本語能力と日本の国内行政に関する大卒レベルの知識が求められます。

2 入学試験の概要

入学試験は、第1期募集、第2期募集、政策法務教育コース募集、内部進学者特別選抜の４回に分けて行われます。

※政策法務教育コースは、公共政策全般に関する実務に３年以上携わった方（例えば、地方議会議員や行政機関の職務経験者、社団法人・財団法人やNPO等において公共性の高い業務を経験された方）を対象としたものです。
※内部進学者特別選抜は、国家公務員をはじめとした公共性の高い職業を志す東北大学の優秀な在学生を対象としたものです。

第1期募集及び第2期募集の入学試験は、提出書類、小論文及び口述試験の総合判定により行います。
政策法務教育コースの入学試験は、提出書類（スタディ・プラン等）及び口述試験の総合判定により行います。
内部進学者特別選抜は、提出書類（出願書身上書等）及び口述試験の総合判定により行います。

◉小論文

小論文の問題は、現在の日本が直面している政策課題について受験生の理解度と見解を問うものとなります。受験生は、内政、経済、国際関係の3分野から出される問題のうち一つを選択して小論文を作成します。過去の問題は、東北大学公共政策大学院のウェブサイトに掲載されておりますので、事前チェックをお薦めします。

◉口述試験

口述試験は、受験生の公共政策全般に対する姿勢、コミュニケーション能力、モチベーション等を総合的に判定するために行われます。

過去の小論文の問題は、東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。

3 本年度の入学試験の日程・場所・出願方法

詳細は、各募集ごとの「令和4（2022）年度東北大学公共政策大学院学生募集要項」をご覧ください。

	内部進学者特別選抜	第1期募集	政策法務教育コース	第2期募集
募集定員	合計30名			
募集要項・出願書類の配布	7月上旬	7月上旬	9月上旬	11月下旬
出願受付	令和3年7月30日（金）～8月5日（木）	令和3年9月9日（木）～9月15日（水）	令和3年10月18日（月）～10月22日（金）	令和3年12月21日（火）～令和4年1月4日（火）
入学試験（口述試験）	令和3年8月28日（土）	令和3年10月2日（土）、10月3日（日）	令和3年11月13日（土）	令和4年1月15日（土）
合格者発表	令和3年9月3日（金）	令和3年10月8日（金）	令和3年11月16日（火）	令和4年1月21日（金）

●募集要項及び出願書類（本研究科所定様式）は東北大学公共政策大学院ウェブサイトからダウンロードしてください。
●入学試験は東北大学片平キャンパスまたはオンラインで実施します。
●入試情報は、随時、東北大学公共政策大学院のウェブサイトに掲載されますので、ご参照ください。

入試情報は東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。
http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/admission/

2022年度4月入学用の入試説明会及び見学会・相談会 参加費不要

本年度は全てオンラインにて開催いたします。

入試説明会

7月	7/3㊏・7/17㊏
8月	8/7㊏・8/21㊏
9月	9/4㊏

8/21㊏・9/4㊏は
ワークショップ体験が可能な
ミニワークショップを開催

ワークショップⅠ 中間報告会見学会

予定
7/22㊍・7/23㊎

政策法務教育コース「社会人向け進学相談会」

10/15㊎・10/16㊏

※上記の日程にて、本大学院を知っていただくため、教員等による説明会を開催します。

開催時間等の詳細は、東北大学公共政策大学院
ウェブサイトでご確認ください。
http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/

アクセスマップ

- □ 東京駅から仙台駅まで約90分
- □ JR仙台駅より徒歩15分
- □ 仙台市営地下鉄東西線青葉通一番町駅より徒歩7分

片平キャンパス

東北大学公共政策大学院

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学法学部・法学研究科専門職大学院係
TEL. 022-217-4945
E-mail contact@publicpolicy.law.tohoku.ac.jp
http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/

TOHOKU UNIVERSITY

このパンフレットは環境に配慮した「水なし印刷」により印刷しております。
環境にやさしい植物油インキ「VEGETABLE OIL INK」で印刷しております。